

気象講演会

東日本大震災以後の福島 — 豪雨、大雪、大気中放射性物質 —

平成23年3月の東日本大震災以後、福島県では新潟・福島豪雨、同年台風第15号による大雨、そして今年2月の大雪など、豪雨・大雪災害が発生しています。また、福島第一原発事故により大気中に放出された放射性物質の除染作業において、その再飛散防止は作業上の重要な課題となっています。

本講演では、放射性物質の大気中の動態や豪雨・大雪の発生など東日本大震災以後の福島における大気環境について、最新の研究成果及び発生メカニズムと予報技術を紹介し、防災対策のあり方を議論します。

講師及び演題

「大気中放射性物質の動態と今後の課題」

講師：渡邊 明氏(福島大学共生システム理工学類 特任教授)

「福島における最近の大雨と大雪」

講師：小畑 英樹氏(福島地方気象台 観測予報管理官)

日時 平成26年11月23日(日) 14:00-16:30 (開場13:30)

場所 コラッセふくしま 多目的ホール(4F)

主催：日本気象学会東北支部

共催：福島地方気象台

後援：福島県、福島市

問い合わせ先：福島地方気象台 (TEL:024-534-0321)

講演の概要

「大気中放射性物質の動態と今後の課題」

福島大学 共生システム理工学類 特任教授 渡邊 明 氏



震災と津波で全電力を喪失して発生した福島第一原子力発電所事故で、多くの放射性物質が一般環境中に放出された。事故直後から今日まで大気中の放射性物質の観測を続けてきた結果について報告するとともに、一般環境中の放射性物質の動きの特徴と、今後の課題について報告し、より安全な防災対策のあり方について考えたい。

「福島における最近の大雨と大雪」

福島地方気象台 観測予報管理官 小畑 英樹 氏



東日本大震災以後、福島県では平成23年7月新潟・福島豪雨、同年9月の台風第15号による大雨、さらに今年2月の大雪など、数十年に一度の規模の気象災害に見舞われた。このような災害をもたらした現象発生メカニズムと予報技術の課題について報告し、今後の気象防災対策について考えたい。



交通案内

公共交通機関のご利用をお願いします！

- ・ JR福島駅（東北新幹線、東北本線、奥羽本線）

西口より徒歩3分